



個人投資家向け会社説明会

株式会社 **アイチ** コーポレーション

2025年5月27日

東証プライム 名証プレミア 6345

※ 20 : 00 開始、進行役の株式会社日本投資環境研究所より、
アイチコーポレーションの出席者紹介

説明者：取締役・常務執行役員 中澤俊一

説明の後に質疑を受け付けることを説明。

株式会社アイチコーポレーション 中澤と申します。

本日はお時間をいただき、誠にありがとうございます。
これより、当社の会社説明会を始めさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

1	はじめに	→ P.2
2	当社について	→ P.4
3	当社の事業について	→ P.10
4	今後の成長戦略	→ P.21
5	直近の業績と株主還元	→ P.27

本日まで説明させていただく内容です。

「はじめに」と「当社について」、次に「当社の事業について」、
4番目に「今後の成長戦略について」、最後に「直近の業績と株主還元」を
ご説明いたします。

はじめに

アイチコーポレーションはこんな企業です

- 
01 日本国内シェアNo.1
 社会インフラの整備に必要不可欠な特装車のトップランナー
- 
02 業界No.1
 お客様に密着・寄り添い共同研究・商品開発により、高シェアを維持
- 
03 2桁利益率
 2015年度～2024年度までの営業利益率は2桁を継続
 2024年度 営業利益率12.5%
- 
04 高配当性向・配当利回り
 配当性向60%以上を基準の方針、2024年度64.7%
 配当利回りは4.36%（5月26日終値1,377円）
- 
05 伊藤忠商事・豊田自動織機との資本業務提携
 販売・生産・技術面での連携により、さらなる増収増益を目指す

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

3/30

皆さまに知っていただきたいポイントとして、ポイント1から5までに、まとめさせていただきました。

ポイントの1と2は、当社は高所作業車の日本国内におけるシェアナンバーワンであること、また、社会インフラの整備に必要不可欠な特装車のトップランナーであること、お客様に密着し寄り添って共同開発や商品開発を行い、その実行力の高さに関して整理をさせていただきました。

またポイント3は、経営成績として2桁利益率を挙げさせていただきました。
 2015年度から2024年度の10年間、営業利益率は2桁を継続しており、2024年度の営業利益率は12.5%となっています。

次にポイント4、株式は高配当性向、高配当利回りとなっています。配当性向60%以上を基準の方針としており、2024年度は64.7%となります。

本年5月26日の終値で株価は1,377円となっており、この株価で計算しますと配当利回りは4.36%となります。

そしてポイント5、伊藤忠商事ならびに豊田自動織機との資本業務提携を行いました。
 販売、生産、技術面での連携によって、さらなる増収増益を目指してまいります。

付け加えますと、本年3月19日に当社株主の移動、ならびに株主還元方針の見直しを公表しました。本件は株主様のご期待にお応えすべく企業価値向上を実現するために、当社にとって最良の決断である、と確信しております。

またご参考までに、5月15日現在、株式の移転完了をもちまして議決権ベースとなりますが、豊田自動織機の持ち株比率は54.3%から21.4%、伊藤忠商事は27.3%となっており、また同時に、当社は自社株買いとして1,000万株を購入しています。
 今後の当社の未来に向けて、ご支援をお願い申し上げます。

以上、当社の特長を簡単にまとめさせていただきました。

当社について

当社は高所作業車などの特殊車両を扱う、上場7社の中で高い収益力を誇っています

特殊車両を扱う上場企業は少ない

同業企業の主要指標において
当社は1番を誇る

特殊作業用

高所作業車、クレーン車、等
主な上場企業社数 3社



営業利益率

1位／7社中 12.5%

緊急車両

消防車、救急車、等
主な上場企業社数 1社



ROE

1位／7社中 7.5%

特定事業用

ごみ収集車、ミキサー車、等
主な上場企業社数 3社



PBR

1位／7社中 1.2倍

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

出所：当社作成（主要指標は直近期末の数字を基に算出）

5/30

当社は高所作業車などの特殊車両を扱う上場7社のうちの一社になりますが、その中でも高い収益力を誇っています。

指標として、代表的な数値である営業利益率、ROE、PBRの3つを掲げさせていただきました。分野的には特殊作業用、緊急車両、そして特定事業用に分けられますが、当社において取り扱っています高所作業車は、特殊作業用に分類されます。

当社の営業利益率は12.5%、ROEは7.5%で、いずれも7社中1位、PBRは1.2倍となっています。



代表取締役社長
山岸 俊哉

創立

1962年

本社

埼玉県上尾市

資本金

104億2,500万円

従業員数

1,026名
(連結、2025年3月末)

拠点数

工場：4
(日本国内：2、海外：2)
支店：6

国内シェア

トラックマウント式
62.4%
(2025年3月末)

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

6/30

続きまして、当社の概要をご説明いたします。

1962年に創立、本社は埼玉県上尾市にあり、資本金は104億2,500万円です。

従業員数は2025年3月末時点で1,026名、拠点数は日本国内に2工場、海外に2工場の計4工場、支店は6支店ございます。

シェアとしては、トラックマウント式ですが62.4%となっています。

社会インフラ整備を支えるお客様の作業の**安全と効率化に貢献**する



創業者 鈴木 作次郎（すずき さくじろう）

1916年 栃木県塩谷郡生まれ
1962年 株式会社愛知車輛を設立
2017年 逝去。享年100

5歳の時、
電柱の上で感電し、燃えながら墜落する作業者を目撃。

「人の命がこうも簡単に失われてよいのか」
という思いが、機械化車両 開発の原点となった。

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

7/30

ここで「創業者の思い」として、創業の歴史と創業者をご紹介します。

社会インフラ整備を支えるお客様の作業の安全・効率化に貢献する理念に基づき、鈴木作次郎氏により当社は創業しました。

鈴木氏は5歳の時に、電柱の上で感電し燃えながら墜落する作業者を目撃したそうです。衝撃的なシーンを見て、「人の命がこうも簡単に失われてよいのか」という思いが、機械化車両開発の原点となっています。

創業63年を迎える現在も、この思いに変化はございません。



当社は1962年、愛知県名古屋市にて創業しました。



現場でのお困りごとを伺い、開発した試作品を現場に持ち込み、お客様に使い勝手を確認いただく。
開発者自らがお客様の声を伺い、お客様と一緒に、商品を作り上げました。



商品の開発を経てお客様の信頼を得るとともに、多くの方に商品をお使いいただくようになり、商品の普及とともに労働災害の減少に貢献してまいりました。
創業者の「人命優先」の思いは、当社の使命となりました。



技術の進歩により、商品の形は変わっても、人命優先と安全第一の姿勢は今後も変わることはありません。

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

8/30

続いて、当社の使命をご紹介します。

繰り返しとなりますが当社は1962年、愛知県名古屋市に創業し、2025年2月で63年目を迎えました。

創業当時の商品開発の特長として、お客様のお困りごとを伺い、開発した試作品を現場に持ち込んで使い勝手を確認いただくことを繰り返し行い、「今日の対話を明日の製品へ」という考えのもと、お客様と一緒にって製品を作り上げてきた、という歴史があります。

多種多様な商品の開発を経てお客様の信頼を得るとともに、創業者の思いであった「人命優先」と「安全第一」の姿勢は当社の使命となり、これは今後も変わることはありません。

1960

1962年 愛知県名古屋市に愛知車輛(株)を設立。A型建柱車を開発
 1965年 高所作業車を開発
 1970年 埼玉県上尾市に上尾工場を開設
 1978年 群馬県伊勢崎市に伊勢崎工場を開設



A型建柱車(1962年)

1980

1985年 群馬県利根郡新治村（現 みなかみ町）に新治工場を開設
 1988年 東京証券取引所第一部、名古屋証券取引所第一部に上場
 1992年 創立30周年。社名をアイチコーポレーションへ変更

高所作業車
一号機(1965年)スカイマスター
SH135 (1975年)

2000

2002年 豊田自動織機の子会社化
 2008年 中華人民共和国に子会社の浙江愛知工程機械有限公司を設立
 2016年 新治工場に105工場を増設

スカイマスター
SH15B (2004年)スカイマスター SH15C1FS
リチウムイオンバッテリー仕様
(2024年)

2020

2022年 創立60周年。東京証券取引所プライム市場へ移行。名古屋証券取引所プレミア市場へ移行
 2025年 伊藤忠商事および豊田自動織機と資本業務提携により、両社の持分法適用会社化

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

9/30

当社の沿革について、代表的な出来事について抜粋したものをご紹介いたします。

まず1962年、愛知県名古屋市に設立しました。A型建柱車の開発が起点となっています。

その後1970年、埼玉県上尾市に上尾工場を開設、
 次いで1978年には、群馬県伊勢崎市に伊勢崎工場を開設しました。

1985年には群馬県利根郡新治村、現在のみなかみ町に新治工場を開設。
 その後1992年に創立30周年を迎え、社名を現在の「アイチコーポレーション」へ変更しました。

2002年には、豊田自動織機の子会社化となりました。

2022年には創立60周年を迎え、東京証券取引所プライム市場へ移行、名古屋証券取引所
 プレミア市場への移行を行い、2025年に伊藤忠商事、豊田自動織機と資本業務提携によって、
 両社の持分法適用会社となりました。

当社の事業について

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

10/30

次に、当社の事業について触れてまいります。

トラックマウント式			
電力業界向け		通信業界向け	レンタル業界向け
ポールマスター D50B1FS 穴掘建柱車	スカイマスター SH15C1FS	スカイマスター SH10C1RN	ブリッジマスター SF77B1FR 橋梁点検作業車
	KA05A ケーブル繰出車	スカイマスター SJ30ARS	スカイマスター SK12C1FN
			スカイマスター TZ10C1RS
小型自走式		自走式	軌陸車
レンタル業界向け		造船業界向け	鉄道業界向け
スカイタワー RM05C1NS パーティカル タイプ	スカイタワー SV06E1NS シザーズ タイプ	マックスリーチ RU09A1SM 電動クローラタイプ	スカイマスター SR12C1SM ブーム自走（クローラ）
		マックスリーチ WU09B1RN 屈伸ブーム自走	スカイマスター SP14D1JM ブーム自走 （ホイール）
			LZ10K 軌陸両用高所作業車
			SSDK スキッドステアローダー

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

11/30

製品とおお客様の業界との関連をご紹介します。

図の上段は、トラックマウント式の高所作業車、穴掘建柱車、またその他の形態のもの。

下段は自走式高所作業車、軌陸車、スキッドステアローダーとなります。

このように、多種多様な商品を設計・製造する技術を有しています。

これら商品を、主な業界として電力、通信、レンタル、造船、鉄道の各業界のお客様へお届けしています。

また当社は設計、製造、販売、サービス、これらを一气通貫する事業活動を行っています。

図中に記されている機種名がございますが、その数値は高所作業車の揚程・高さを表す数値となっていますので、ご参照いただければと思います。

なお当社は、作業床の高さが4mから30mまでの商品を保有しており、多種多様な商品を展開しています。

電力業界



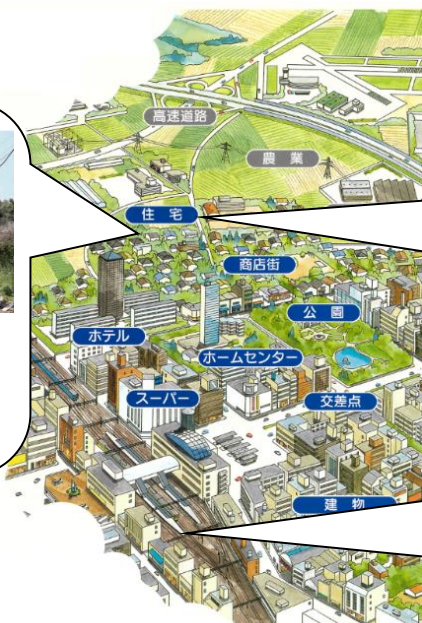
送配電工事



建柱工事



地下送配電ケーブルの更新工事



通信工事業界



光ケーブル張り替え

鉄道業界



軌道設備の点検

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved

12/30

これらの商品が、どのように社会インフラの維持に貢献しているかを皆さまがイメージしやすいように、本ページと次のページに使用ケースをマッピングし、ご紹介いたします。

まず電力業界では、写真にお示した送配電の工事、電柱を立てる建柱工事、地中線を埋設する地中配電線ケーブルの更新工事を支えている工事車両を扱っています。

通信工事業界では、光ケーブルの張り替えや通信のアンテナの建て替えなど、通信を支えているインフラの工事車両を扱っています。

鉄道業界では、終電から始発までの夜間に軌道（線路）に入り、架線のメンテナンスを行う工事車両を扱っています。

大型施設点検・メンテナンス



構内施設における各種点検・メンテナンス

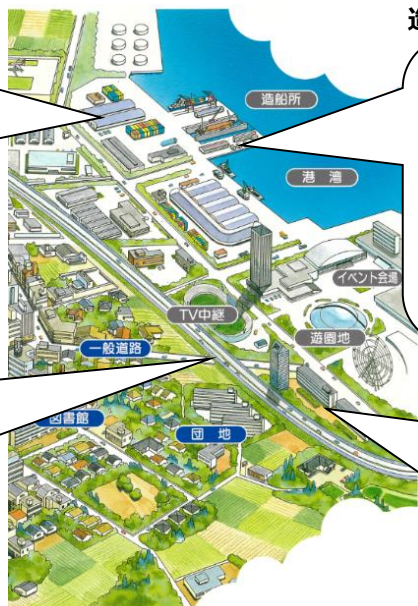
道路維持・メンテナンス



トンネル内壁の点検



橋梁の点検



造船・船舶業界



船舶メンテナンス



新造船の外板塗装

建設業界



無足場工法による大型施設の建設

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

13/30

次のページは、道路維持メンテナンスや大型設備点検メンテナンス、造船・船舶の業界、建設業界を表したものとなります。

参考となりますが、日本にはトンネルは約1万か所ございます。

また橋梁は大小合わせて70万にもなり、こうした設備の維持メンテナンスを行う車両として、左下に示した車両を提供しています。

建設業界では、足場の代わりに高所作業車をご使用いただき、工事の安全や効率化に貢献しています。この工法を無足場工法と呼ばせていただいておりますが、こうした現場でも当社の商品が使われています。

最後になりますが、大型設備点検や工場内のメンテナンスでも活躍している作業車があります。

このように当社は、トラックマウント式高所作業車と自走式高所作業車の2種類を取り扱っています。

有事の際の活動

～災害復旧支援活動～



「CAS」とは、お客様が災害復旧作業の現場で安全かつ迅速な復旧活動を行えるよう、当社グループが一丸となって取り組む活動

体制（そなえる）

- 全国サービスネットワーク
- 災害復旧バックアップ体制

情報（つながる）

- 車両の稼働状態管理
- 車両の位置情報提供

もの（つくる）

- 道路障害物(倒木)除去
- 応急電源確保・移動充電車 等

北陸電力送配電(株)様と「災害時における復旧作業の支援に関する協定書」を締結（2024年9月）



電源車で避難所への電力供給



倒壊電柱の改修作業への建柱車、高所作業車の供与



Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

14/30

前のページまでは、平時でお使いいただいている社会インフラの維持についてご説明しましたが、それに加え、災害復旧支援の場において、社会貢献活動を力強く進めている内容をご紹介します。

「Connecting AICHI Support」、CAS（キャス）と名づけさせていただきました当社独自の活動です。

近年甚大化する自然災害に対して、復旧活動を支援させていただく。これをアイチコーポレーションとして積極的、かつ力強く推進していく、という活動です。

当社の支援体制や全国のサービスネットワーク、災害復旧のバックアップ体制、情報、車両の稼働状況や位置状況、機材やモノの供与、道路障害物の除去や電源車による電源確保などのバックアップを行います。

こうした体制を整え、万が一、災害が発生した場合にはいち早くご支援させていただきます。

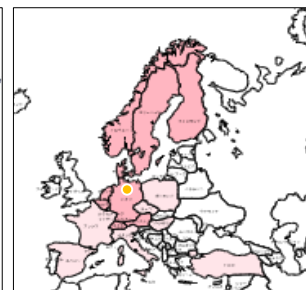
右側の写真は一つの事例となります。

送配電工事会社様と協定を結ばさせていただき、災害発生の際に支援活動を展開させていただく、こうした活動においても、先ほど説明しました当社の商品特長・業界に適した特性を最大限に生かし、社会貢献に努めてまいります。

事業展開地域



開発	本社・上尾事業所
生産	日本：新治工場、伊勢崎工場 中国：浙江愛知工程機械有限公司、杭州愛知工程車輛有限公司
販売	ニュージーランド：Aichi NZ LIMITED 欧州：SAHA LIFT（ディストリビュータ） * 国内は別紙



本社・上尾事業所（埼玉県）
新治工場（群馬県）
伊勢崎工場（群馬県）
高崎工場（群馬県）※建設中

浙江愛知工程機械有限公司
杭州愛知工程車輛有限公司
（中華人民共和国 浙江省）

Aichi NZ LIMITED
（ニュージーランド、販売子会社）

SAHA LIFT
（欧州ディストリビュータ）

（凡例）
赤：現在の展開地域
ピンク：今後の展開予定地域

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

15/30

次に、当社の事業展開地域をご紹介します。

まず、開発機能は本社・上尾事業所に所在しております。

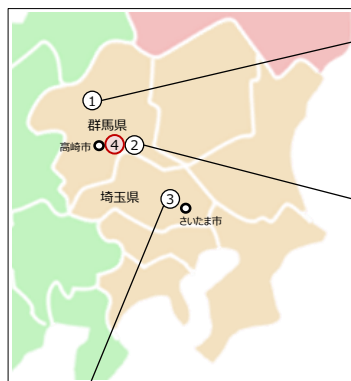
生産拠点は、日本国内に新治工場、伊勢崎工場の2か所、中国に100%出資の浙江愛知工程機械有限公司、50%出資の杭州愛知工程車輛有限公司の2か所がございます。

販売子会社は、ニュージーランドのAICHI NZ LIMITED がございます。

そして欧州では昨年、SAHA LIFT社と契約し、ディストリビュータとして活躍いただいています。

日本国内、中国、ニュージーランド、欧州において販売機能を有しており、これらの地域を中心に事業を展開しています。

国内開発・生産拠点



① 新治事業所 面積：17.2ha



所在地：群馬県利根郡みなかみ町
稼働開始：1985年
内容：トラックマウント式、大型自走式高所作業車の組立、部品加工



② 伊勢崎事業所 面積：3.3ha



所在地：群馬県伊勢崎市
稼働開始：1978年
内容：小型自走式高所作業車、スキッドステアローダ（SSL）の組立、部品加工



③ 上尾事業所 面積：5.7ha



所在地：埼玉県上尾市
稼働開始：1970年
内容：試験・研究開発（本社・営業本部）

④ 高崎工場 面積：3.3ha



所在地：群馬県佐波郡玉村町
（2026年1月稼働開始予定）

（建設中の様子。2025年5月時点）

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

16/30

日本国内の活動拠点をご説明いたします。

生産は新治工場、伊勢崎工場に加え、現在建設中の高崎工場を加えて3工場体制となります。高崎工場は2026年1月から稼働開始を計画しています。

新治事業所は上段に示した通り、現在はトラックマウント式高所作業車と大型の自走式高所作業車を、中段の伊勢崎事業所では小型自走式高所作業車とSSLの製造を行っています。

これらの3工場、この機能・役割は後ほどご説明します。

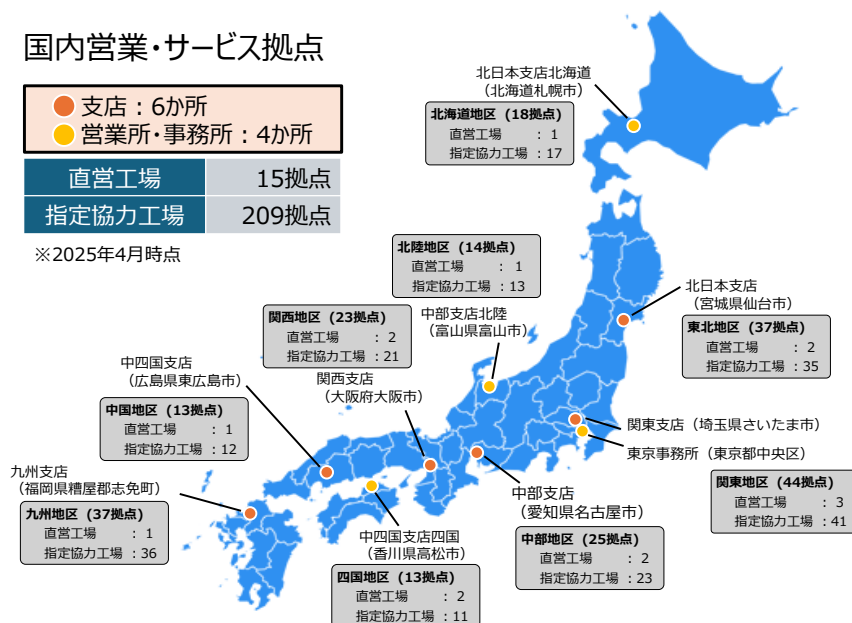
3工場を利用して画期的生産性の向上につなげ、さまざまな施策を展開する予定です。

国内営業・サービス拠点

● 支店：6か所
● 営業所・事務所：4か所

直営工場	15拠点
指定協力工場	209拠点

※2025年4月時点



Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

17/30

続いて、当社の営業拠点、ならびにサービス拠点、協力工場様についてご説明いたします。

まず、支店は日本国内に6か所、営業所は4か所、合計で10か所となります。

サービス直営工場は15拠点、指定協力工場様は209拠点ございます。

また地図にあります通り、各地域で営業、カスタマーサービスの活動を展開しています。

なお指定協力工場様においては、私どもにとってその活動は大きな支援や強みになっており、サービスメンテナンス活動を積極的に推進していくことで、他社にはない強みとなっています。

当社製品を安全にお使いいただくために ～ アイチ研修センター

労働局長登録教習機関の「アイチ研修センター」を設置（仙台、上尾、立川、名古屋、大阪、東広島、福岡）

資格取得研修や安全向上研修、危険再認識教育を開催。

初めて運転されるお客様に 運転資格取得研修

（高所作業車運転技能講習、小型移動式クレーン運転技能講習など）



運転資格を取得済みのお客様に

高所作業車運転従事者危険再認識教育【厚生労働省通達】



傾斜地での逸走防止措置に関する実技



段差路面の走行に関する実技

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

18/30

続いて、当社の製品を安全にお使いいただくための機能をご説明いたします。

アイチ研修センターを全国の弊社営業支店内に併設し、高所作業車や穴掘建柱車の運転資格、あるいはクレーン車の操作資格などの講習を開催し、資格を取得いただく活動を行っています。

また、その場を利用させていただき危険再認識教育を行っております。

この写真はトラックマウント式高所作業車を傾斜地で設置する際に車両の逸走防止を体感していただき、工事を安全に進めていただく、また、クローラ式の高所作業車においては段差のある走行路面において衝撃が発生する、この状況を再現し体感いただけます。

実際に現場で作業車をお使いいただいた際に講習内容を思い出していただき、より安全に作業車をお使いいただく。

このように、再認識を深めていただく安全教育研修も実施しております。

社会貢献活動 ～社会の一員として地域に根差し、共に発展できる活動の継続的な推進～

小学生社会科見学



2024年度は9校約750名が来訪

環境保全活動



生物多様性の保全活動に参画

地域・社内外の連携強化



駅伝大会を開催し、地域・社内外の連携強化

地域清掃活動



アダプトプログラムによる、事業所近隣の清掃活動

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

19/30

次に、地域社会との密着・貢献という点で私ども上尾、新治、伊勢崎の各事業所、各営業拠点における社会貢献活動の一例をご紹介します。

上尾事業所では小学生の社会科見学に来社いただいています。2024年度の実績で、小学校3年生を対象に約750名にご来社いただきました。
高所作業車の乗車体験や設計実務の様子、高所作業車が使われる現場の特長などを学んでいただいています。

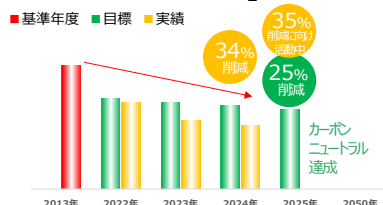
また環境保全活動では近年、生物の多様性が謳われておりますが、この活動にも各拠点で積極的に行っています。

地域社会との連携では、様々なイベントや清掃活動なども積極的に行っており、地域との密着に重きに置いて活動しています。

環境対応

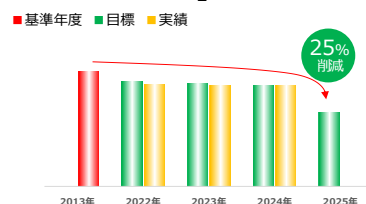
～ CO₂削減の取り組み～

【生産活動を通じたCO₂排出量削減】



高崎事業所:太陽光発電システム等を導入し
CO₂排出ゼロを目指す(2026年1月稼働予定)

【商品を通じたCO₂排出量の削減】



2024年度に発売した電動車種を中心とした
販促により削減目標達成を目指す

RU09A1SM電動自走式高所作業車
(2024年3月発売)



リチウムイオンバッテリー搭載車
(2024年7月発売)

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

20/30

未来に向けての取り組みにおいては、環境対応の事例を2つご紹介いたします。

一つは、生産活動によるCO₂を低減する宣言を行っています。2013年度比で2025年度においては、25%のCO₂排出量を削減するべく活動しています。

そして高崎工場では、CO₂排出ゼロを目指すことを目的として太陽光発電システムの導入を予定しています。

商品を通じたCO₂排出量の削減活動では、生産活動と同様に2013年度比で25%の削減を達成するべく、電動化やリチウム電池を活用した車両、ハイブリッド化の車両などを順次開発・展開する計画を立てています。

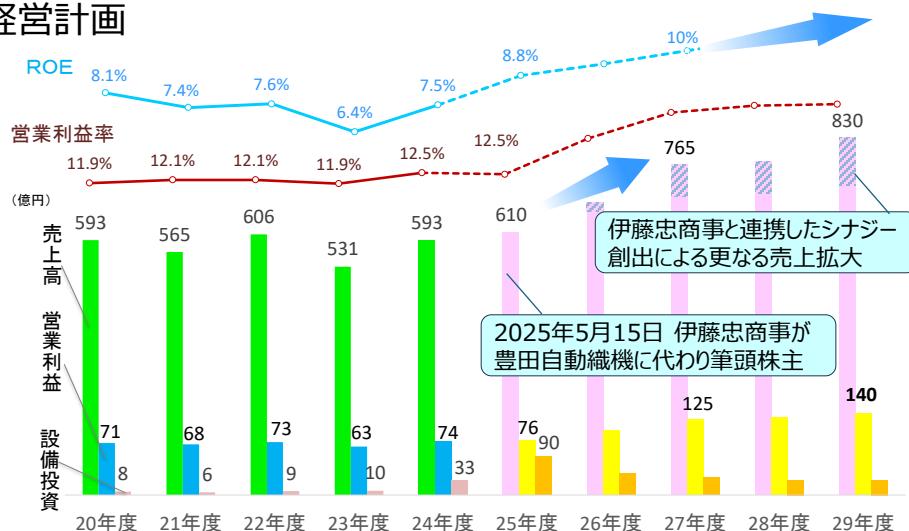
今後の成長戦略

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

21/30

続きまして、今後の成長戦略です。

中期経営計画



中期経営計画達成により、2027年度 ROE10%、更に向上を目指す

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

22/30

売上拡大、ならびに画期的な生産性向上、この二つの柱を実現すべく活動を展開しています。これまでの2027年度までの中期経営計画をお示していましたが、新たに2029年度までの売上利益目標を掲げさせていただきました。

新たな筆頭株主となりました伊藤忠商事と連携したシナジーの創出、こちらを今後できる限り迅速に、様々な挑戦を積み上げながら成果へと結びつけてまいります。

また、豊田自動織機については、持分法適用会社として引き続き、当社のものづくり面での支援を継続いただきます。

この大きな二つのステークホルダーのもと、活動してまいります。

設備投資については、高崎工場の稼働開始後も積極的に2期工事、3期工事と投資を継続し、売上拡大を支えてまいります。

1) 売上拡大戦略「伊藤忠商事と連携したシナジーの創出」

海外売上拡大

世界59ヶ国 85拠点の海外ネットワークを活用

・欧州ディストリビュータSAHARIFT社との連携

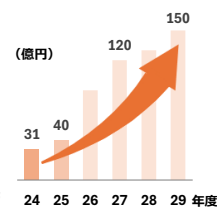
南欧・東欧への
販売地域拡大

・現地パートナーとの連携

・現地駐在員との連携

東南アジア：
電力事業者向け拡販
商流整備・部品供給体制再構築

*シナジーの優先検討国を色付け



Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

23/30

海外売上の延伸は、伊藤忠商事との連携を軸に、その戦略立てを実施しています。

それぞれ具体的な戦術が各地域で抽出され始めており、現在具体的な活動へと落とし込んでいる状況です。これを必ず実現すべく、海外の売上を延伸していきます。

右側に棒グラフがありますが、これは先ほどご説明しました売上計画の内、海外売上の数値となります。売上全体に占める海外比率では、24年度は約5%、これを29年度に約20%以上に引き上げる計画です。

1) 売上拡大戦略「伊藤忠商事と連携したシナジーの創出」



Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

24/30

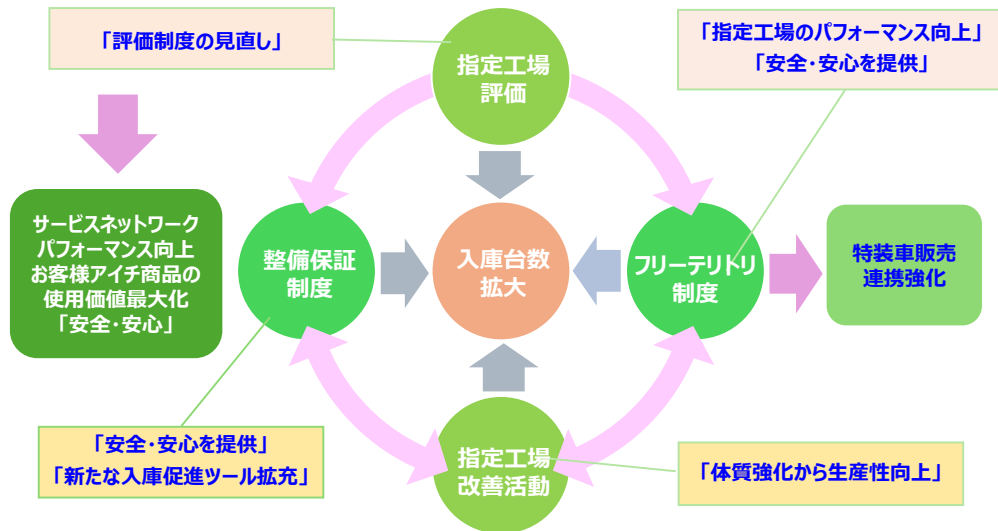
さらに、海外売上拡大のほかに、高所作業車のバリューチェーンの価値最大化ということで、ここにお示した製造・新車販売からレンタル・リース、サービスメンテナンス、中古車、そして修理リメイクという、この循環を限りなく価値の高いものにすることで、売上拡大を図ってまいります。

その一つはリースの事業化です。これまでの私たちにはないノウハウを伊藤忠商事と連携し、新たに創出してまいります。

中古車事業の強化は、サービス・メンテナンスやリース事業とも連携し、グループのプラットフォームを利用して中古車の循環を促すことで、高所作業車の価値、ならびに中古車の価値を高めます。

中古車の下取りを拡大することで、バリューチェーンの価値の最大化、更に伊藤忠商事と連携した海外物流の効率化とともに海外売上の拡大を図ってまいります。

2) サービス売上拡大施策 ～ 在庫台数拡大「4つの重点実施項目」



Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

25/30

サービス事業は、売上拡大の施策として在庫台数の拡大を挙げており、これを実現するために4つの重点施策を行います。

これはお客様において当社製品をより安全にお使いいただくため、という考えが大前提になります。この大前提のもと、在庫台数を確実に増加させ、点検・メンテナンスを行わせていただきます。

お客様に製品を安全にお使いいただくため、指定工場様の評価や活動地域のフリーテリトリ制度を拡充します。また、指定工場様の改善活動をご支援することで、活発な改善活動を行っていただいています。

また整備保証制度の導入により、在庫台数拡大とサービス売上の拡大を実現してまいります。

3) 拠点再編による大幅な生産性向上



Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

26/30

今後の成長に関して、工場の生産機能についてご説明いたします。

冒頭にご説明した高崎工場の新設に関してです。新治工場と伊勢崎工場の機能を再編いたします。

新治工場では現在、トラックマウント式高所作業車、大型自走式高所作業車の製造を行っています。大型自走式高所作業車の製造を高崎工場へ移管し、新治はトラックマウント専用ラインへの変更を行い、ものづくりの効率化を図ります。

また伊勢崎工場は現在、部品製造と小型自走高所作業車の製造を行っていましたが、こちらは小型自走式とSSLを高崎工場に移管し、伊勢崎は部品専門工場に特化します。それぞれの工場がそれぞれの専門機能を持ち、画期的生産性向上につなげます。

なお高崎工場の投資金額は85億円で、2026年1月に稼働を開始します。

伊勢崎工場には電着塗装工場を新設、2026年9月の稼働開始、35億円の投資を予定しています。

物的な強化を行いながら生産性向上、ならびに売上拡大、海外進出を実現すべく、投資を開始しています。

直近の業績と株主還元

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

27/30

直近の業績と株主還元について、ご説明いたします。

24年度決算の業績



概況

(単位:億円)

連 結		23年度		24年度		増減額	増減率
		金 額		金 額			
売上高		531.2		593.0		61.8	11.6%
営業利益		63.4	11.9%	74.4	12.5%	11.0	17.3%
経常利益		70.1	13.2%	82.2	13.9%	12.1	17.2%
当期純利益		52.7	9.9%	63.3	10.7%	10.6	20.2%
関係会社		23年度		24年度		増減額	増減率
浙江愛知工程機械有限公司							
	売上高	23.0		27.3		4.3	18.7%
	営業利益	0.6	2.6%	2.7	10.0%	2.1	351.9%
	当期純利益	0.8	3.5%	2.4	8.8%	1.6	200.0%
AICHI NZ LIMITED							
	売上高	2.5		1.3		△ 1.2	△48.0%
	営業利益	0.3	12.0%	0.1	7.7%	△ 0.2	△66.7%
	当期純利益	0.1	4.0%	0.2	15.4%	0.1	100.0%
杭州愛知工程車輛有限公司(持分法適用)							
	売上高	50.2		69.3		19.1	38.0%
	営業利益	9.1	18.1%	10.0	14.4%	0.9	9.9%
	当期純利益	8.9	17.7%	9.4	13.6%	0.5	5.6%

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

28/30

2025年3月期決算は、概要と状況について2つの大きな点がございます。

一つはトラックマウント式高所作業車です。

トラックシャシの認証問題がありましたが、それが解決に向かい、現在は安定傾向であることが2024年度の増収増益の要因です。

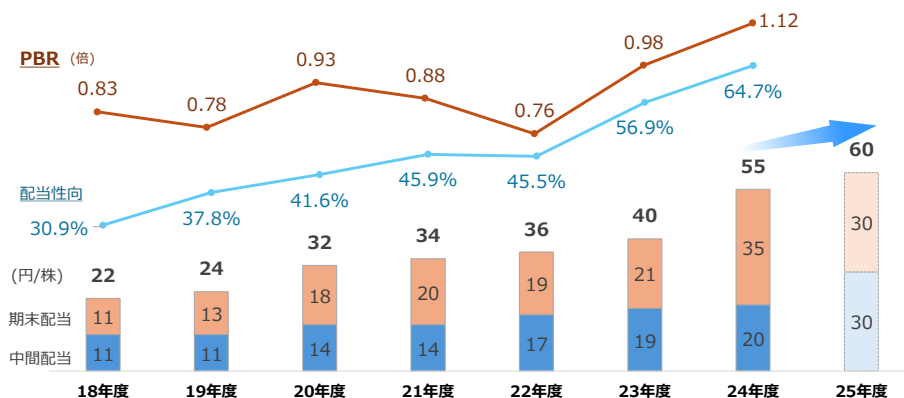
またサービスにおいてはワンストップサービスを展開し、予防保全や車検業務の取り込みを行い、増収となりました。

また利益は、費用削減や製造コスト低減、業務効率化を進めた結果、2023年度対比で増収増益となりました。

関係会社各社の経営成績はご覧の通りですので、ご確認ください。

【株主還元方針】

株主還元を安定的に向上させることを基本に、**配当性向60%以上**を基準とする



今後も設備や開発・人への投資やM&Aと、株主還元のバランスを考慮し、配当の向上を目指す

Copyright © 2025 AICHI CORPORATION. All Rights Reserved.

29/30

最後に、株主還元方針に関してです。

株主還元を安定的に向上させることを基本に、配当性向60%以上を基準に還元させていただきます。

2025年度の配当金は通年で1株あたり60円を予定しています。
企業価値向上に資する活動として、今後も設備投資や商品開発、人への投資、M&Aを検討いたします。

また、株主還元とのバランスを考慮し配当性向の向上も目指してまいります。

この資料に記述されている、当社の予想、見通しは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。

また、これらの数字に関しては、様々なリスクや不確実性により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

ここでのリスクや不確実性とは、弊社を取り巻く経済情勢、お客様環境、競合環境、関連法律・法規、為替レートの変動などが含まれます。

ただし、業績に与え得る要因はこれに限定されるものではありません。

ご説明の最後になりますが、アイチコーポレーションは非常に大きな変化点を迎え、未来に向けた挑戦を実施してまいります。

以上で会社説明を終了いたします、ありがとうございました。

【質疑応答】

Q1. トラックマウント式高所作業車において、日本国内のシェアナンバーワンを取れている理由について教えてください。

A1. お客様の現場から発せられる生の声を伺って問題あるいは課題、解決策をお客様と共に考えさせていただき、商品や工法の変革を具現化できていることがシェアナンバーワンにつながっていると感じております。

また社会貢献性の高い商品の設計、製造・販売活動を継続し、お客様から「アイチコーポレーションでなくては困る」と評される会社であり続けるということを念頭に、さまざまな活動を推進していきたいと考えています。

Q2. 今後、伊藤忠商事とのシナジーで海外売上を拡大するとのことですが、課題や懸念はありますか。

A2. 説明資料の中では売上高の比率の話をさせていただきました。現在、海外売上の比率は約5%ですが、シナジー効果により20%以上に向上させたい、と考えています。

これには高所作業車において、対応すべき各国の規制があります。例えば、国際規格のISOや欧州であればEEA規格、そして北米・アジアであればANSIといった規格への対応が必要になります。これらの規格準拠に商品設計や設計評価で迅速に対応し、また国内外の商品力を高めていく必要があり、この点は喫緊の課題です。

また、その商品を海外展開・拡大する点を考えますと、現地での架装あるいは組み立ての容易性や効率性も考えなければなりませんし、お客様にて製品をお使いいただくうえで重要となるサービスやメンテナンス体制の充足も必要不可欠であると考えています。

海外各国の売上拡大や可能性、また海外ネットワークの効率的な活用が重要となるため、伊藤忠商事とも密に連携し実現したいと考えています。

Q3. 今後、自社株買いの計画はありますか。

A3. 2025年3月19日の公表、5月15日の株式移転で大きな変化がありました。当社はこれまで数回にわたり自社株買いを行い、直近では先ほど説明した通り、豊田自動織機から1,000万株の買い付けを行いました。5月の株式移転以降も、流通株式比率の維持やTOPIX基準のクリアなどを考慮すると、自社株買いの計画は今のところございません。

また、弊社で持っております政策保有株式の割合も数パーセント程度と低い傾向であり、今後は株主の皆さまへの還元として配当性向を安定的に向上させていくための体力基盤作りを念頭に注力したいと考えています。

Q4. DXやITの活用状況について教えてください。

A4. 近年こうした技術はさまざまな方面で話題になっています。弊社としても、これら技術は必要な技術領域であると考えています。

この技術を有効的、かつ持続的に効果を発揮させていくための前提として、会社の中で強固な標準化や手順が基盤として形成されていることが必須であり、その基盤の上にデジタル活用の技術が乗っていくとより効果的、かつ実効性の高いものになっていくのではないかと考えています。

標準化という人によるアナログ的な技術と、デジタルの両方の技術を成長させることで、さまざまな効率化や自動化を目指していきたいと考えています。

Q5. 高崎工場への投資は分かりましたが、その後の設備投資の予定はありますか。

A5. 2029年度までの中期経営計画で触れさせていただきましたが、2024年度の投資額は33億円で、これは高崎工場の土地と建屋の一部です。2025年度・90億円の投資を行いますが、これは高崎工場の建屋および設備、ならびに伊勢崎事業所の電着塗装工場等になります。

2026年度以降の投資は、数字は挙げておりませんが、2025年度の半分ほどの規模の投資を継続していきたいと思います。

現在は、3工場の再編を実施しております。再編後も、高崎工場の土地は、半分程度空いておりますので、これを、例えば仕入先様のサテライト機能などに活用する、当社は内製化技術の強化や、仕入先様と連携し原価低減の対応力をつけるなどの投資を行いたいと考えています。

Q6. 競合会社があれば教えていただけますか。

A6. 高所作業車を取り巻く国内の上場企業は当社を含め3社ございます。他の2社は、株式会社タダノ、株式会社AIRMANになります。上場していない競合もあり、さまざまな競争がございます。

さまざまなお客様の機能を満足させる、使い勝手を向上させる、また安全性に寄与する、環境性能を高めるという点で競合製品との差別化技術をいかにタイムリーにお客様にお届けするかを念頭に、商品開発に取り組んでおります。

Q7. 株主優待について、今後の予定はありますか。

A7. 株主還元につきましては、安定的に配当性向を高めていく方針で、配当性向60%以上を基準とさせていただいております。現時点では、株主優待の計画はございません。

終了予定時間を迎えたため、20：45終了。